

# 楽園だより



今までの暮らしが変わる。玄関から、ほっとする家。

2024年 3月1日 No.77

## Our Works

UA=0.3W/m<sup>2</sup>K C=0.2 cm<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>

## 『リビングを眺める家』(中津川市)

2023年冬 完成



玄関まわりだけ木板張りです



玄関横は半帖のシューズクローゼット

### お施主様の声

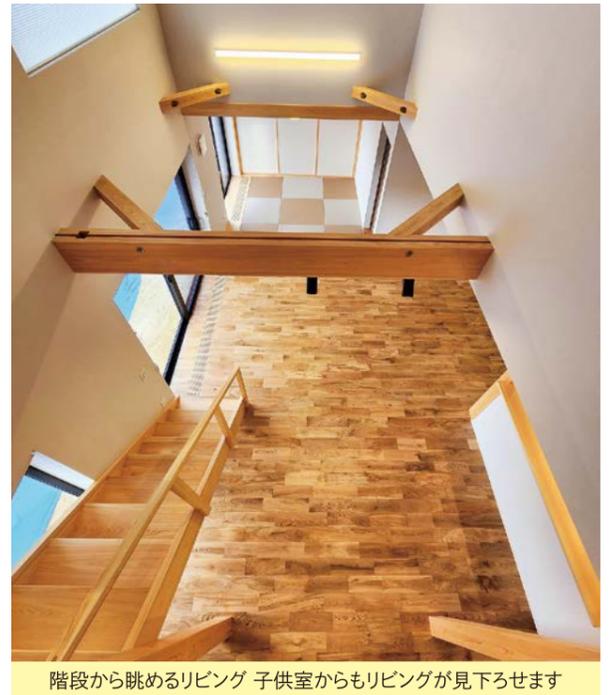
夫婦ともに寒い家で生まれ育ち、家を建てるなら真冬でも暖かく過ごせることが第一条件でした。そんな中、床下エアコンという空調方法を知り、宿泊体験にて雪の舞う中エアコン1台で快適に過ごせたことに感動し、楽園住宅さんに決めました。打ち合わせでは間取りがなかなか決まらずご迷惑をおかけしましたが、私達の希望を詰め込んだ、子育てから老後まで住んでいける間取りにすることができました。C値0.2が裏付けするように、工事も丁寧に仕上げてください、楽園住宅さんを選んで良かったと思いました。引き渡しの瞬間から暖かく、この冬の寒さでも家の中で快適に過ごせており、大満足です。



書斎コーナー



リビングの所々に配置されたブラック色が効いているインテリア



階段から眺めるリビング 子供室からもリビングが見下ろせます



グレーとホワイトで統一されたキッチン

### 現場担当者から



お引渡しの日、とても寒い日でしたが、玄関ドアを開けて家の中に入ると、すぐに暖かい空間に包まれ、またこうした家づくりができて良かったと思いました。お引渡しの前日にお子様誕生されるというおめでたいこと続きで、お引渡しはご主人おひとりでの参加となりましたが、お家の暖かさに少し寂しさも和らぐ気がしました。家に帰るとほっとする、心が和らぐ家づくりをこれからも心掛けていきたいと思います。



カウンタータイプの洗面 ニッチ収納付きです



リビングつづきの和室 上部にロールスクリーン用のBOXを設けました

## 宿泊体験モデルハウスのご案内 年中快適



住所：恵那市長島町正家一丁目11番地1



長く暮らす「家」だからこそ 住み心地を体感しよう!

# 無料宿泊体験できます!



3月はヨモギが出始めます。独特な香りで春を満喫できるヨモギですが、漢方ではどんな薬として用いられているのでしょうか?



- 1 胃腸薬
- 2 止血薬
- 3 頭痛薬

答えは楽園住宅ホームページをご覧ください

楽園住宅



『人と環境に優しい家づくりをする工務店』  
恵那市長島町正家一丁目5番地5  
TEL 0573-26-5122

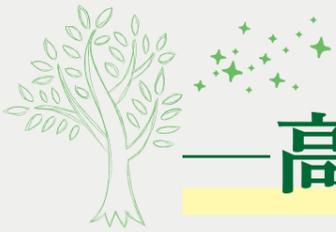
# 楽園住宅

公式LINEはじめました!

@azj8127w



ご意見・ご質問ございましたら、なんでもお問い合わせください!! また、こんな事案気でやって欲しい! ということがございましたらぜひ、リクエストお願いいたします。



# 楽園住宅

## —高断熱・高気密住宅との出会い⑤—



半世紀前に東京から移り住んで、冬の寒い時期を快適に過ごせる住宅の大切さや、29年前の阪神大震災から耐震性の大切さ等、安心で安全・快適な住宅について楽園住宅がこだわって来た経緯を文字にして遺そうと思いこの連載をしています。今回は日本で高断熱・高気密住宅を半世紀、研究をしてこられた室蘭工業大学名誉教授鎌田紀彦先生とドイツでパッシブハウス研究所（ヨーロッパで建築物の省エネをリードしている）を主宰しているW・G・ファイト先生をご紹介します。

お二人はスウェーデンルンド工科大学ポーアダムソン研究室へ同時期に留学されていました。

ドレスデンは旧東ドイツで、ロシア大統領プーチン氏がベルリンの壁が崩壊（1989年）する時に、KGB（ソ連国家保安委員会）のスパイとして赴任していた街です。ここで2010年に第15回パッシブハウス世界大会が開催されました。その大会に鎌田先生が参加しファイト先生との対談が実現しました。その時の様子を今回は紹介したいと思います。

鎌田・ファイト両教授は20年前に、スウェーデンのルンド工科大学ポーアダムソン研究室で一時期一緒に過ごしていたことがありました。NPO（現在は一般社団法人）新木造住宅技術研究会の消費エネルギー計算プログラムQPX（冷暖房消費エネルギー定常計算プログラム）と、パッシブハウス研究所が開発したPHPP（冷暖房消費エネルギー定常計算プログラム）を双方で精査・検証し、日本とドイツ両国間で、建物の省エネルギー化促進の為の情報交換を行う事となりました。その時の対談の様子を報告します。

**鎌田教授**：私は確か同じ時期にルンド工科大学にファイト先生と一緒にいたと思います。私の記憶ではファイト先生と対話をしたことを覚えています。その時の話題はモルタル壁の耐久性についてファイト先生に質問をしたはずで。

**ファイト教授**：その時にどのようにお答えしたか覚えておりませんが今、そのご質問にお応えするとすればドイツでは200年位前のモルタル壁が残っているため200年位は耐久性があると思います。当初、ドイツで壁にモルタルを塗り始めたのは隙間風を防ぐためであって、地中海地域の夏、日射を反射させる為に生石灰を外壁に塗っているのと同じ様に意図があったはずで。

**鎌田教授**：私はこれまで海外の省エネ住宅がどうなっているかあまり興味がありませんでしたが、最近では日本でも欧州のパッシブハウス基準の話題が出るようになってきました。

昨年、私が主宰するNPO法人新木造住宅協議会（新住協）の研修会で我々が提唱するQ1（キューワン）住宅の性能とファイト先生が提唱されているパッシブハウス基準を性能比較してみました。すると非常に双方の性能値が近似している事が分かりました。

**ファイト教授**：学術的に建築物理学における住宅の居住環境を探求してゆく解決手段は画一的ではないのですが地域差や住宅の形態に違いがあるものの、その結果は、ほぼ同じ結論（生活者にとっての快適な居住条件）に至る事が分かりました。しかし、そこへ至る過程は国や地域によって異なりけりまして同じではありません。従って居住者にとって快適な居住環境を確保する為の手法も異なるとは当然です。

**鎌田教授**：日本でもパッシブハウスの情報はかなり広がっています。今後の日本の住宅性能について、ある種のスタンダードになっていくものと思いますが、気象条件や気候風土（日照時間や梅雨・シロアリや腐朽菌等）が異なりパッシブハウスとしての条件を満たす手法は欧州とは違ったものになると思います。これまでの日本の木造工法では床から壁を通りぬけて天井へ空間が貫通していました。充填された50mmのグラスウール断熱材がほとんど断熱効果を持たない状態で施工され、気密性能もほとんど取れていませんでした。従って断熱材が利かない寒い住宅が普通に建てられ続け、そのストックは既に約3000万戸あって不適切な断熱性能のままに残っています。

**ファイト教授**：その状況はドイツでも20～30年前まで同じ状態でした。

※この対談で日本とヨーロッパの住宅省エネに関する流れが分かりますが文章が長くなってしまっているので何度かに分けて連載しようと思います。



### 2010 対談

ファイト教授 × 鎌田教授

29.5.2010 ドイツドレスデン市 マルティム・ホテルのラウンジ



### 地球温暖化

読者の皆様よりご質問を頂きましたので、今回はご質問について回答いたします。



#### 1. 地球はほんとうに温暖化しているのか？



##### ●海水が増えて陸地が小さくなる

温暖化によって気候がかわることで、地球の海の水位はどんどん上昇しています。世界の海面は2100年までに最大1.1m高くなると予測されています。国土交通省の調べで、日本では2006年以降、1年間に3.6mmずつ海面が上昇しているとのこと。世界では、海拔の低い島や海岸沿いに位置する都市でも水没すると予測され、今まで住んでいた土地で生活できなくなったり、海産資源や農作物への影響も懸念されます。

##### ●動物や植物などへの影響

温暖化によって寒い場所の水が解けてしまうと、氷の上や冷たい海で暮らしていた動物たちが生きていけなくなります。例えばホッキョクグマは、住む場所やエサが減り生息数が減っています。海の水位が上がって陸地が減ることで、木や花、動物たちの住む場所がなくなるといった影響が出ています。動物は移動することができず、植物は移動することができないため、温暖化に適応できないものは絶滅する可能性も考えられます。

#### 2. 温暖化するとなにがいけないのか？

##### 【地球温暖化して身近なところで起きている現象】

##### ●気候が変わる

今まで寒かったところが寒くなったり、暑かったところがさらに暑くなったりしています。2023年の夏は猛暑日が続きました。気象庁によると、統計が始まった1910年～1939年までの30年と、1992年～2021年の30年の猛暑日の平均日数の差が約3.5倍に増加しているということです。私たちの住んでいる東濃地域でも、20年ほど前は雪が積もることが多かったと思いますが、ここ数年降っても積もらない、そもそも雪の降る回数が少なくなりました。また、朝晩は氷点下の寒さなのに昼間は春のように暖かい。これも温暖化の影響であると言われてます。梅雨の時期に雨が降らなかつたり、逆に夏場、局所的にゲリラ豪雨が発生したり。台風の発生が多くなり、海面の水温が高いことによりその勢力が衰えにくくなって、同じところに長く居座ることで大きな被害をもたらしています。

##### ●食べ物、名産物が少なくなる

このような気候変化の影響で食べ物や名産物の減少をもたらしています。気候が変わってしまうことで、雨が降らなくなる場所が増えたり、局所的な大雨や台風が増えて田んぼや畑がダメになってしまい、お米や野菜などの農作物が取れなくなってしまう。動物などが生きていく環境も変わってしまうため、肉や魚などが少なくなってしまう。また、異常気象は漁業にも影響をもたらしています。三重県が主な産地のイセエビですが、近年水揚げ量が激減し、北の地域での水揚げ量が増加しています。2010年の水揚げ量は1.95トンでしたが、2023年では7.51トンと4倍近くに増えています。イセエビを例に挙げましたが、魚などの水産物は取れる場所がじわじわと北上してきているのです。このように各地の名産物が気候が変わったことにより、今まで取れていたものが取れなくなってしまう、生き物の生息場所が変わるだけでなく、そこで生計を立てている人達にも大きな影響を与えてしまいます。

まとめ

まだ地球温暖化が私たちの生活に直接影響を与えることは少ないかもしれませんが、すでに温暖化の影響を受けてしまっている人や場所があることは事実です。前号でも述べましたが温室効果ガスの削減、木の積極的な利用等の小さな積み重ねが地球を守ることに繋がり、その結果私たちの生活を守ることになるのです。



----- エアコン1台で家中どこでも快適な空間をぜひ体感して下さい -----

体感見学随時受付中！

恵那市長島町正家一丁目5番地5  
TEL 0573-26-5122

楽園住宅

